

RPJ News

2018年 8月号

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋2-17-7-801

毎月1回発行 E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守

連絡先 090-1811-7119

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

内 容

* 平成三十年 夏

理事 社会福祉法人尾道のぞみ会 理事長 高垣 孔幸^{よしゆき}

* がんばろう広島

実行委員 社会福祉法人尾道のぞみ会 橋本 周治

* 精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムを考える

～尾道こころサポート事業から地域で暮らすを支える～

社福)尾道のぞみ会、尾道市こころサポート事業(精神障がい者アウトリーチ事業)

ソーシャルワーカー(精神保健福祉士) 西川 浩司

* 十勝・帯広の精神保健・医療・福祉を掘り下げるセミナーに参加して

社福)尾道のぞみ会 希望の家 池上 永益子

* 事務局からのお知らせ

○ 2018年第13回イタリア地域精神保健視察ツアー

参加者募集開始のお知らせ

* 平成三十年 夏

理事 社会福祉法人尾道のぞみ会 理事長 高垣 孔幸^{よしゆき}

この度の西日本豪雨で亡くなられた方、被災された方に心よりお悔やみ、お見舞いを申し上げるとともに、一日も早く元のような生活に回復されますことを祈念いたします。

さて、平成最後の夏も終わろうとしています。私たちの地域で印象に残ることといえば、豪雨、断水、酷暑、逆走台風といったところでしょうか。決して忘れられない夏になり、平素からの防災意識がいかに重要であるかを再認識させられました。近年の日本各地の災害は報道等で知っていたはずなのに、「ここらは大丈夫じゃ」「今まで何ともなかったから」と、危機感に欠けている自分を猛省した夏になりました。

今後、浸水や土砂崩れといった直接的な被害はもとより、道路寸断や断水等による影響が大きかった場合や他の災害時対応の防災マニュアルはしっかり整備しておくべきですね。

頻発する台風の本格シーズンはこれから！また想定外の災害の可能性も決してゼロではないと思います。皆様も十分に備え、注意し、お気をつけてお過ごしください。

最後になりましたが、この度の豪雨では、地域内外たいへん多くの方からのご心配の声やお見舞い、また物資等をご支援いただき、心より感謝御礼申し上げます。

* がんばろう広島

実行委員 社会福祉法人尾道のぞみ会 橋本 周治

平成 30 年 7 月の西日本豪雨による被害に遭われた皆様ならびにそのご家族の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

各地で様々な被害をもたらした豪雨災害は、日が経つ毎に被害状況が明らかになり、いたるところに爪痕や影響が残っています。私の大学時代の友人の中には、まだ連絡がつかない者もおります。ひたすら無事を祈るしかありません。

広島県尾道市にあります当会の各施設への被害は僅かでしたが、被災した各地、道路や線路などの復旧には大変な時間を要し、関係者の皆様には多大なご迷惑をおかけしております。何卒ご理解、ご容赦賜りますようお願い申し上げます。

また、早々に励ましのご厚情を賜りました皆様、この場を借りて厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。大変嬉しく、心強く感じております。

災害時は、対策マニュアル等も整備しておりましたが、いざとなると全く機能せず、組織としての課題が浮き彫りとなりました。尾道市の断水は一部を除いて約 2 週間で復旧しましたが、その 2 週間でも現場には大変な苦勞をさせました。特にグループホームなど入所系の事業所は、私共のような小さな規模でも 1 日に最低 6 トンの水が必要です。その水を手配することだけで 1 日が終わってしまう状況でした。水の大切さを痛感した次第です。貯水槽がない私達はバケツやポリ容器やらを総動員して確保に努め、猛暑の中、朝早くから夜遅くまで利用者支援に奔走しておりました。(本当に若いスタッフ達はよく頑張ってくれました。どこかで労をねぎらってやろうと思います。)

そんな時、全国の仲間、元職員、OB・OG の方々や自衛隊から篤志や支援物資が届いたのです。また、SNS で友人達が情報発信や情報提供などしてくれたこともあり、たくさんのご支援をいただいたおかげで、なんとか乗り越えることができました。感謝しかありません。それらいただいた支援物資は、在宅の利用者や地域でお困りの方々への支援に大いに活用させていただきました。

今回、浮き彫りになった課題に対し危機感を募らせた現場スタッフは、誰彼ともなく意見を出し合い、時に臨時の災害対策に関する職場内研修会まで開催し、災害対策のあり方について議論をしています。その話し合いの中で、災害対策チームを結成することとなり、まずは実効性のあるマニュアルづくりと、今後の体制整備について検討を深めることになりました。今年は、台風発生の多い年でもあります。またすぐに同じ事態が発生するかもしれない、災害に備えた体制づくりを急がねばなりません。

そんな災害支援の最中、6 月の仁木美知子さんの訃報に続



き、私の幼馴染であり障害当事者でもある親友が癌で亡くなりました。その親友は家族がいないので、友人達と共に闘病を支えていたのですが、力及びませんでした。

良くないことは続きます。普段から市の庁舎でお昼休憩にパンや野菜等を販売させていただいているのですが、断水復旧後にこれまでと同様に販売していると、市の社会福祉課から「利用者工賃に影響が出ない範囲で、9月まで販売する量を控えてほしい」と話がありました。災害後、観光客の数が激減して周辺飲食店の客数が減っている中で、庁舎内で行列ができているパン屋がいると周辺飲食店が困るから、観光客が増えるまでの期間、配慮してほしい、とのことでした。販売する量を控えて工賃に影響が出ないわけありません。おそらく色んなところから圧力がかかって、やむを得ずの話だと思われそうですが、非常に悲しい想いをしています。何より本来私たちを応援し、守るべき立場の社会福祉課から言われたことが悲しいのです。

しかし、へこたれてばかりはいられません。谷中先生がよくおっしゃられていた「ピンチをチャンスに」を合言葉に、ナニクソとがんばっていくしかありません。

少し、今年の活動内容に触れます。

4月から「こころサポート事業」がスタートしました。これは埼玉県所沢市で取り組んでいる事業を尾道でも実施したいと尾道市から話があり、新たにスタートした事業で、未受診や治療中断の方、引きこもりの方などに対して多職種連携を図り、必要があれば適切な機関につなぎ、生活を支援するというものです。詳細は西川からの投稿をご覧くださいと思いますが、事業の根本は「決してひとりぼっちにさせない」というところにあります。少しずつではありますが成果もでてきているようです。

また、住まいの確保についての検討チームを立ち上げ、安心して暮らせる環境をつくるべく、検討をすすめています。現在はグループホームの整備に向けて検討中です。

人材確保の検討チームも立ち上げました。私ももうすぐ50代になります。10年後、20年後を考えると、どうしても若い世代の育成が急務です。しかし、少子化や空前の売り手市場も相まって、思うように人材が集まりません。そこで若手スタッフが中心となって採用活動と働きやすい職場づくりをしています。成果はまだ十分とはいえませんが、ノウハウは確実に積みあがっているように思います。

また、広報についても力をいれようと思っています。私もそうですが、正直に言って活動を言語化する力、数値化する力、発信する力がありません。どんなに良い取り組みや活動をしていても、周囲に知っていただかなくては活動も広がりませんし、継続も困難です。ただ、私たちが勝手に「良い活動だ」と自己満足していることも考えられるので、場合によっては第三者(プロ)による客観的な評価も必要かと思っています。

筋道なく思いつくまま、この原稿を書いています。尾道は前を向いてがんばっているということをお伝えしたい。この原稿を書いている時点では、観光客も増えつつあると地元新聞の記事に記載されていました。尾道だけでなく広島県内各地でも復興に向けてがんばっています。カーブもサンフレッチェも絶好調です。

さあ、がんばろうぜ！広島！

* 精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムを考える

～尾道こころサポート事業から地域で暮らすを支える～

社福)尾道のぞみ会、尾道市こころサポート事業(精神障がい者アウトリーチ事業)

ソーシャルワーカー(精神保健福祉士) 西川 浩司

7月初旬の西日本を襲った豪雨災害では、多大なるご支援とご心配をいただきましたこと、まずは御礼申し上げます。広島県は勿論、西日本は確実に前を向いて歩いています。

さて、この度は2018年4月から広島県尾道市で始まった新しい事業についてご報告いたします。名称を「尾道市こころサポート事業」と言い、概ね18歳以上で尾道市内に在住する①精神疾患が疑われ、生活に困難を抱えておられる未受診の方、②以前、精神科に受診されていたが医療離れされ、生活に困難を抱えておられる方、③精神疾患が原因で引きこもりになっておられる方が対象となります。要するに精神疾患が疑われるが、何の支援、サービスも入っていない方が対象者となります。

支援の内容は以下の通りです。

- 対象当事者及び、ご家族への訪問・相談対応
- 電話による相談対応
- ケアマネジメント技法を用いた多職種チームによる支援
- 関係機関との連絡調整及びケア会議の開催

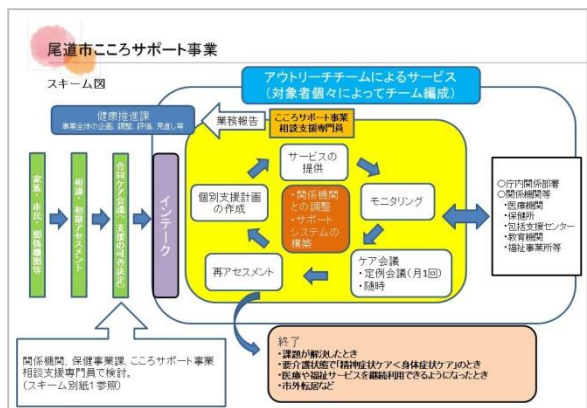
2018年4月からの3ヵ月間の効果や課題について記載します。

【効果】

- 対象者は未受診者が一番多く、次いで医療中断者、社会的孤立者となっている。
- 対象者は統合失調症の症状が出ている方が多く、次いでアルコールの課題のある人となっている。
- 受診同行により、医療中断が改善されたケースあり。
- チームでのサポートが、当事者の方に対しても安心感に繋がっているケースあり。
- 当事者を取り巻く支援者を収集し、その都度その人にあった支援チームを組み立てるのは苦慮することもあるが、ケースを共有することにより、目指す目標と情報の共有、役割分担の確認を行い、地域で支えるための仕組みを作るきっかけとなっている。

【課題】

- まずの対応窓口が地区担当の保健師と精神保健福祉士のための、マンパワー不足は否めない(都度、必要なチームを構築)。
- 当事者への支援は勿論であるが、その家族への支援体制整備も必要。
- 長期入院者の退院時に、地域における生活移行支援の仕組みが必要(地域移行・地域定着の促進・充実)
- 山間部や島嶼部は精神科医療機関が限られており、遠方の精神科医療機関まで通院することがハードルとなり、受診困難や医療中断に繋がりがやすい。市内精神科病院、クリニックなどの往診システム等の構築が必要。



私はソーシャルワーカーなので、初めてお会いする対象者の方に、「医療」を前面に出すことはしません。「生活支援」を基盤とし、ご本人やご家族の困りごとについて、想いを受け止め、一緒に考え、望む生活に向けて目標設定をし、まずは関係構築に努めます。危機介入のようにスピーディーな解決とはいきませんが、遠回りしながら、緩やかにご支援させていただいています。ただ、新しい事業に携り思うことがあります。特に精神科医療分野にはなりますが、医療、保健、福祉がもっと「地域」に出ていくことが必要だと、最近、以前に増して感じます。我々は専門職としての知識・技術を有しながら、生活支援の重要性をもっと知るべきだと。

*** 十勝・帯広の精神保健・医療・福祉を掘り下げるセミナーに参加して
社福)尾道のぞみ会 希望の家 池上 永益子**

この度は、西日本豪雨災害において、ご支援賜り誠にありがとうございました。お蔭様で、職員、利用者ともに体調を崩すことなく、のりきる事が出来たのも、ご支援賜ったおかげとっております。まだ、豪雨前の生活に戻られていない方も多いたと思います。一日でも早く、平穏な日々を送る事が出来ますように、心よりお祈り申し上げます。

さて、5月に「十勝・帯広の精神保健・医療・福祉を掘り下げるセミナー」に参加させて頂きました。私は、長い間、某空港内の制限エリア内にある、店舗で販売員として仕事をしておりました。もしかしたらお会いしている方がいらっしゃるかも知れませんね。

現在は縁があってこちらの法人でお世話になっています。精神障がい知識は、よく分からないけど怖いのかな？くらいでした。現在はグループホームで生活支援員として、18名の利用者さんと日々関わり、勉強をさせて頂いております。働くうちに、“知らないが怖い”との思いが“知識のない方が怖い事”であったと変わりました。利用者さんとの関わりでは、常識と思っていた事が、まったく通用せず、本人の気持ちに寄り添い困りごとに目線を合わせることで、なるほどと思う事があり、驚きと発見の日々です。なんでこんなになるのだろうか？なぜその様に思っているのか？と思う事を大切にしています。しかし、今のままで良いのかと思う気持ちもありました。

今回の参加については、私が参加しても良いのだろうかと思ったりしましたが、飛行機大好き、北海道大好きとかなり不純な動機もあり、参加を決めました。飛行機で空の旅を満喫し、壮大なスケールの景色、気持ちの良い空気、山の雪景色とセミナーへ参加する前はかなり癒されました。

セミナーでは、現在は当たり前のようにある、福祉サービスがない時代から、利用者に寄り添い、必要な資源を作ってきた歴史を門屋さんや長年実績を積んでこられた方々から伺い、衝撃を受けました。改めて、本人中心の生活を送る事の支援がいかに重要であることを学ぶ事が出来ました。実は、私が行っている支援は、依存度を上げ、決定能力を下げているのではないかと

思っています。



講演をされる門屋さん



グループワークの様子

いた為、本人の持つ能力を奪う事なく、本人中心の支援が出来る様に努める事が必要な事を学びました。また、グループワークや親睦会では、いろいろな業種の方と交流する事が出来て勉強になりました。この学びや出会いを大切に、日々の支援に活かしたいと思っております。

* 事務局からのお知らせ

○ 2018年第13回イタリア地域精神保健視察ツアー

参加者募集のお知らせ



今年もイタリアの地域精神保健を視察・研修するツアーを企画しました。今年で13回目となるこのツアーですが、最初はヴェローナ、トリエステの研修から始まり、その後アレッツォが加わり、2012年からヴァルディキアーナが加わった現状の形になっております。ヴェローナ大学のブルチ教授やアレッツォ精神保健局のダルコ局長との関係性から現在まで現地の視察研修が出来ております。

昨年、ブルチ教授が定年退職されましたのでお時間が取れるということで、今年はヴェローナからトリエステ訪問まで同行していただける予定です。そしてブルチ教授がお持ちのイタリア精神保健の歴史や最新の動向をレクチャーしていただける予定です。

ダルコ先生、ブルチ先生ともに現役を引退されましたので、このツアーが継続できている今、是非ツアーにご参加ください。大変有意義なツアーになること間違いありません。

日程 2018年11月12日(月)～11月21日(水) 10日間

参加費 39万8000円

ツインルームをお二人で使用していただきます。

シングルルームをご希望の場合は、追加料金7万円が必要です。

航空運賃・宿泊費・研修・通訳費・イタリア国内交通費は参加費に含む。

空港諸税・燃油サーチャージは別途ご負担ください。

募集人数 12名程度 ※申込み10名未満の場合は催行中止となります。

申込み締切り 10月5日(金) 定員になり次第締切らせていただきます。

通訳 全ての研修に日本語通訳が付きます。

スケジュール詳細は案内書でご確認ください。



—編集後記— 読み応えのあるタイムリーな原稿、本当にありがとうございます。多様な現場の生々しい今を、飾らない言葉でお届けしたいと思っておりますので、まさにど真ん中の印象です。

愛媛も西日本豪雨災害の被害からまだ先がみえません。私たちが主に関わっている宇和島市三間ではいまだ水道の復旧が生活水のみ、飲水可まで水質改善ができず、ミネラルウォーターのニーズが更に上がっています。吉田でも、大きな人生の選択をする方々もでてきていますし、みかん畑をはじめ産業復興もまだ目途が全くたちません。

課題は個別化しつつあり、一筋縄ではいかないことばかりになってきています。被災しなかった近くの私たちの役割の重さを痛感しています。また、助けてください。

イタリアツアーの企画が、仁木さんのご尽力で完成しました。ぜひ、よろしくお願いたします。

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会 TEL090-1811-7119